

石川県いしかわけんやたののエジリ古墳出土埴輪こふんしゅつどはにわ

種別	重要文化財 考古資料
指定年月日	平成9年6月30日
所在地	小松市埋蔵文化財センター

矢田野エジリ古墳は、小松市南部に広がる月津台地に造られた、全長約30メートルの前方後円墳で、築造は6世紀前半とみられている。昭和63年（1988）に発掘調査が行なわれ、墳丘や埋葬施設はすでに失われていたが、周溝から大量の埴輪が発見された。

埴輪の内訳は、人物埴輪が11点、馬形埴輪が2点、筒形の円筒埴輪が42点、筒形で先の開いた朝顔形埴輪が6点である。人と馬が別々に作られた騎乗の男子や、それに従う馬飼人、天冠をつけた男子や、巫女、跪く男子など、人物埴輪はどれも特徴的で、葬列の様子を表現したものと推定されている。

この埴輪群のほとんどは固い須恵質であり、生産に須恵器工人が関与していた可能性が高い。また円筒埴輪では、製作途中まで埴輪を逆さにして成形する「倒立技法」が用いられている。これら二つの特徴が共通している東海地方の埴輪との関連が議論されており、当時の政治的交流を検討する資料としても注目された。

本古墳の埴輪群は、質・量ともに北陸では屈指のものであり、埴輪の生産や流通、技術を知る上で、また古墳時代の服装や儀礼を考える上で、研究上重要な位置を占めるものである。



円筒埴輪と朝顔形埴輪



人物埴輪と馬形埴輪

(撮影：田邊朋宏)